

小平尚道「米国ミニドカ（ミネドカ）強制収容所」

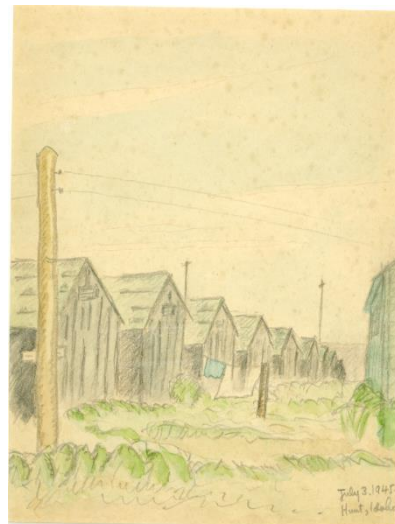
スケッチ展

2018年5月7日（月）～6月29日（金）

はじめに

小平尚道（こだいら・なおみち）氏は、1912年アメリカ生まれ、1920年に日本に帰国し1937年に日本神学校（現東京神学大学）を卒業後アメリカに戻り、パシフィック神学校 Pacific School of Religion の大学院を修了、シアトルの長老派教会牧師となりました。

1940年頃に日米関係は極度に悪化し1941年12月8日太平洋戦争が始まり、交換船で日本に渡った日系人もいましたが、小平氏はアメリカに留まり、1942年2月ルーズベルトの大統領令9066号が発令、3月からWRA戦時転住局（War Relocation Center）が設立され強制収容が始まりました。小平氏も収容所に送られた12万人のアメリカ在住の日系人のひとりとして、アイダホ州のミニドカ収容所に日本の敗戦前まで収容されました。



小平氏のスケッチから

今回、図書館に展示する25枚のスケッチは、小平尚道氏が収容所内で折にふれ描かれた原画です。米国内の日系移民は戦前から大きな差別と迫害を受けました。戦時中はさらに日系人だけに対する隔離政策のため、ほとんどの場合は財産や仕事を失い、居住の自由も奪われ、刑務所のような収容所もありました。しかしミニドカのようにかなり自由な活動が許されていたり、また米国内でも日系人の強制収容の是非について法律的な論議が起きたり、収容者に対する公私レベルの支援活動や、聖公会関係者も加わったキリスト教同盟などのサポートもありました。



管理棟が集められた区域

戦争が終わり徐々に生活を取り戻した日系人は三世も含め、1970年に全米日系市民協会が損害賠償にむけて活動を開始し、1980年調査委員会が設置され公聴会などが開かれ、1987年には、収容所に送られた日系人に対し大統領からの謝罪文と2万ドルの賠償金が支払われることになりました。これらのことから、日系人収容のための大統領令が発せられた2月19日は、アメリカで日系人強制収容を記憶するための「想起の日 Day of Remembrance」に制定されています。

小平尚道氏は戦後、プリンストン、バーゼル、エジンバラ大学に学び、玉川大学の教授となり、東京神学大学や立教でも教鞭を取り、退職後は千葉県館山で晩年を過ごされ92歳で逝去されました。2017年、ご遺族より関係資料寄贈のお申し出が立教大学にあり、図書館蔵書として受け入れることになりました。

小平氏のスケッチ画は教文館ほか何ヶ所かで展示されたことがありますが、今回、アメリカ・スタンフォード大学フーヴァー研究所の研究者上田薫氏の講演会、立教学院展示館で開催される小平尚道氏の遺された収容所関連の史資料の展示企画（特別展『アメリカにおける日系人強制収容と日系二世—「小平尚道資料」が語るもの—』）と合わせて、図書館ではスケッチ展を開催いたします。

冷戦と呼ばれた時代が終わったにもかかわらず、グローバル化したテロや地域紛争の無くなる気配がありません。戦争が人々に与える過酷な状況について考える契機としていただければ幸いです。

立教大学図書館

<関連イベント>

図書館でのスケッチ展のほかに、戦時中のアメリカにおける日系人強制収容所の状況や背景、戦後に行われた賠償訴訟についての講演会、小平尚道氏の遺された原資料の展示会を以下の通り予定しています。



講演会・対談

■講演会『太平洋の向こう側の日系研究：スタンフォード大学ライブラリー＆アーカイブスの取り組み』

講師：上田薫氏（スタンフォード大学フーヴァー研究所）

ライブラリー＆アーカイブス日系、日本コレクション キュレーター）

■対談『小平尚道資料が意味するもの』

対談者：小平史子氏（「小平尚道資料」寄贈者）

岸俊光氏（毎日新聞社）

武田珂代子教授（立教大学異文化コミュニケーション学部）

松原宏之教授（立教大学文学部）

日時：2018年5月26日（土）14:00～16:00

場所：立教大学池袋キャンパス 11号館3階 A301 教室

司会：中村百合子教授（立教大学図書館長、学校・社会教育講座
司書課程主任）



立教学院展示館特別展

■展示『アメリカにおける日系人強制収容と日系二世 — 「小平尚道資料」が語るもの —』

日時：2018年5月26日（土）～7月21日（土）

平日 10:00～18:00/土曜 11:00～17:00

* 日曜・祝日は休館（その他詳細は展示館 HP 参照）

場所：立教学院展示館